

「新之助」生育速報 No. 2-2

令和8年7月21日
村上農業普及指導センター

1 生育調査ほにおける生育状況（7月21日現在）

生育等の概況

草丈：並～長い 茎数：並 葉数：並 葉色：ほぼ並

○7月8日調査時の葉色低下への対応として追肥を実施した朝日地区のほ場で、草丈が急伸長している（葉色は指標値並になった）。

○出穂期は、平年より3日程度早い（8月11日頃）見込み（7月21日現在）。

調査場所	田植日	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (L)	葉色 (SPAD)
村上市岩沢（朝日）	5/24	79	495	12.3	34.3
村上市牛屋（神林）	5/15	65	559	13.5	34.1
指標値（7月20日）	5月中旬	62	515	13.1	33.5

2 今後の技術対策

（1）葉色が急落しているほ場の対応について

- ・1回目の穂肥時期まで期間があることから以下の対応を実施する。
- ・中干しを実施中の場合→入水を再開し、葉色回復の様子を見る。
- ・水管理は適正に実施しているが、葉色値が急落、幼穂形成期頃の葉色値34の確保が困難な場合→窒素成分で0.5～1.0kg/10aの範囲で追肥し、葉色の低下を抑制させる。

（2）水管理

- ・中干しの終了目安は、小ひびが入る程度とする。終了後は間断かん水とし、幼穂形成期以降は飽水管理を徹底する。特に減数分裂期（出穂期12日前頃）から出穂・開花期にかけて最も水が必要となるので、水不足にならないようにする。
 - ・異常高温、強風、フェーン時には速やかに湛水し、稲体の急激な蒸散防止に努める。
- ※地域の水利事情を踏まえて、かけ流しを避け、適切な水管理を心がける。

（3）穂肥施用

- ・穂肥は、出穂前21日～18日（1回目：幼穂長5～10mm）と12～10日前（2回目：葉耳間長±0cm）の2回に分けて施用する。
- ・穂肥量は、1回当たり窒素量で1kg/10a、合計2kg/10a 施用を基本とするが、地力や生育状況、気象予報から判断して、1回当たり1.5kg/10aを上限に施用量を調節し栄養凋落を防止する。
- ・2回目の施用量は下表を目安とする。

穂肥2回目施用時の葉色 (SPAD 値)	32.0 未満	32.0～ 34.5 未満	34.5～ 37.0 未満	37.0 以上
施用窒素量 (kg/10a)	1.5	1.0	0.5	施用しない

- ・出穂10日前以降の穂肥は、食味を低下させるので原則施用しないが、異常高温（猛暑）で栄養凋落が予想される場合には、追加の穂肥を検討する。

【3回目穂肥について】

判断の目安	・ 出穂期3日前（ただし穂肥2回目から7日以降）に、第二完全展開葉の SPAD 値が出穂期の基準値 34 未満、かつ登熟期の異常高温や栄養凋落が予想される場合。
施用の時期	・ 出穂期3日前
窒素施用量	（化学肥料） → 1kg/10a 以内 （有機質 100%肥料） → 2kg/10a 以内

（3）いもち病対策

- ・ 葉いもちの発生は、各地で7月上旬より確認されている。
- ・ 新之助の穂いもちほ場抵抗性は「弱」で、わたぼうし並に弱い。葉いもちの発生がない場合でも、出穂前の適期に粒剤の水面施用、又は粉・液剤で2回（出穂期直前と穂揃い期）の散布を実施し、穂いもちを防除する。
- ・ 共同防除は、新之助の防除適期と合わない場合が多いので、その場合は、新之助に合わせて個別で防除を行う。

（4）斑点米カメムシ対策

- ・ 7月上旬の病害虫予察調査で、斑点米カメムシ類の発生量が多いほ場が散見されている。
- ・ 共同防除によりカメムシ防除が実施されている地区でも、以下の場合には追加防除を実施する。
 - ①共同防除の実施日から「新之助」の出穂期までの日数が10日を超える場合
 - ②栽培ほ場の付近でカメムシ多発生地がある場合
 - ③ほ場でノビエやホタルイの発生が多く、すくい取りの結果、カメムシが確認された場合
- ・ 農道・畦畔の定期的な草刈りを継続するとともに、水田内のノビエやホタルイ等の雑草対策を徹底する。

（5）その他病害虫対策

- ・ 紋枯病は、前年発生ほ場や過繁茂のほ場で多発生しやすいので、薬剤防除を実施する。
- ・ ごま葉枯病の多発生しやすいほ場では薬剤防除を実施し、次年度以降ケイ酸・鉄・マンガン資材等の投入により土づくりに努める。
- ・ 例年、コシヒカリで稲こうじ病の発生が見られる地域（常発地）では薬剤による予防防除を行う。
- ・ ニカメイチュウ、イネツトムシやコブノメイガなども発生しやすいので、発生状況を確認して必要な防除を行う。

※農薬の使用は、ラベル等で使用方法を確認し、適切に使用する。

3 その他

- ・ 栽培記録の記帳・確認、異品種混入のリスク低減など GAP 規範に基づいた管理を行う。
- ・ 収穫作業に向けて、作業同線・手順の確認や水分計のチェックを実施する。

☆ **農作業時は適度な水分と休息をとり、熱中症対策は万全に！**
余裕を持った作業計画で農作業事故の発生を防止しよう！